

# 第14回 SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 速報



第14回 SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 オープニングセレモニー

第14回 SKIPシティ国際Dシネマ映画祭（主催：埼玉県、川口市ほか）は、7月15日（土）～23日（日）猛暑の中、開催をされた。

本稿では、最終日の23日（日）のクロージング・セレモニー（表彰式）にて、発表された長編部門・短編部門・アニメーション部門の、コンペティション3部門の各賞を紹介する。

長編部門では、ノルウェー作品『愛せない息子』（アーリル・アンドレーセン監督）がグランプリに輝き、ノルウェー作品としては本映画祭では他の賞も含め初の受賞となった。また監督賞は、ドキュメンタリー映画『中国のゴッホ』（ハイボー・ユウ監督、キキ・ティエンチャー・ユウ監督）が受賞。海外のドキュメンタリー作品の受賞も、本映画祭では他賞を含め初となった。さらに審査員特別賞にはハンガリー映画『市民』（ローランド・ヴラニク監督）が輝き、こちらもハンガリー映画の受賞は本映画祭では初。各賞受賞作品は以下の通り。

## ■長編部門（国際コンペティション）

●最優秀作品賞主催者賞：賞状、トロフィー  
ソニーDシネマアワード：賞金100万円  
『愛せない息子』2017年/ノルウェー/103分 監督：アーリル・アンドレーセン

「動物の赤ちゃんには、生まれたその日から立ち上がって走りださなければならない種もいる。しかし人間の子供は、何年もの間、自分では何もできず親に頼らなくては生きていけない。本作の企画の始まりは、もし親が子供を愛せないというタブーが起きた場合どうなるか、ということだった。この映画をご覧になった方の中に、もし親として子育てに悩んでいる方がいたら、その間



アーリル・アンドレーセン監督は表彰式に欠席のため、ヒルデ・スサン・ヤークトネスさん（脚本）が代理受賞



監督賞 『中国のゴッホ』 ハイボー・ユウ監督 / 中国

題に目を背けるのではなく、オープンに話し合うことが大事だと気づいて欲しい。」

## ●監督賞

主催者賞：賞状、トロフィー  
ソニーDシネマアワード：賞金50万円  
『中国のゴッホ』2016年/中国、オランダ/81分 監督：ハイボー・ユウ、キキ・ティエンチャー・ユウ

## ●審査員特別賞

主催者賞：賞状、トロフィー ソニーDシネマアワード：賞金50万円  
『市民』2016年/ハンガリー/109分 監督：ローランド・ヴラニク

## SKIP シティアワード

国内作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与する賞。  
主催者賞：トロフィー、受賞者の次回企画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像



審査員特別賞『市民』監督：ローランド・ヴラニク / ハンガリー



長編作品『父の足あと』マルコ・セガート監督 / イタリア

制作支援施設・設備の一定期間の利用を提供

## 『三尺魂』

2017年/日本/93分 監督：加藤悦生

## ■短編部門（国内コンペティション）

### ●最優秀作品賞

主催者賞：賞状、トロフィー  
川口市民賞：トロフィー、賞金50万円  
※最優秀作品賞の副賞として SKIP シティアワードを授与

※ SKIP シティアワード：受賞者の次回企画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像制作支援施設・設備の一定期間の利用を提供

## 『冬が燃えたら』

2016年/日本/22分 監督：浅沼直也  
浅沼直也 監督



オープニング上映作品「ANIMAを撃て!」堀江貴大監督(左)、出演の服部彩加さん、小柳友氏



長編作品「Noise」松本優作監督(左)と撮影監督の岸建太郎氏



長編作品「Noise」出演の安城うららさん



オープニング上映作品「ANIMAを撃て!」、出演の藤堂海さん、「冬が燃えたら」出演の森恵美さん



短編作品「冬が燃えたら」浅沼直也監督(左)と出演の森恵美さん



「三尺魂」出演の村上穂乃佳さん(右)、辻しのぶさん

「この作品はキャスト 2 人とスタッフ 3 人だけで、本当に手作りで作った。制作中は、行き届かないところがあったと思うが、最後までしっかり、僕の言っていることを汲み取って、本当に助けていただいた。主演の澤田和宏とは、十年來の友達で、苦勞を共にした仲間なので、ありがとうと伝えたい。グランプリを頂いたことを自分の励みにして、これからも映画制作を頑張っていきたい。」

●奨励賞

主催者賞：賞状、トロフィー

川口市民賞：トロフィー、賞金 30 万円

『サイレン』

2017 年 / 日本 / 17 分監督：三宅 伸行

『追憶ダンス』

2016 年 / 日本 / 25 分監督：土屋 哲彦

■アニメーション部門(国内コンペティション)

●最優秀作品賞

主催者賞：賞状、トロフィー / しまむらアワード：トロフィー、賞金 10 万円

※最優秀作品賞の副賞として SKIP シティアワードを授与

※ SKIP シティアワード：受賞者の次回会

画に対し、彩の国ビジュアルプラザ内の映像制作支援室などの一定期間の利用を提供

『I think you're a little confused』

2016 年 / 日本 / 8 分監督：小川 育

●奨励賞

主催者賞：賞状、トロフィー / しまむらアワード：トロフィー、賞金 5 万円

『The Interpreter』

2015 年 / イギリス / 7 分監督：尾角 典子

『竹田駅メモリーズ』

2016 年 / 日本 / 4 分監督：浜村 満果

◎アニメーション部門 最優秀作品賞受賞

『I think you're a little confused』小川 育 監督

トロフィーがすごく重くて(笑)、賞の重みを感じる。この作品は大学院の修了制作として制作したもので、学生として最後の作品だったので、このような賞をいただいて、大変うれしく思う。今は仕事をしているので、なかなか自分の作品を制作するのが難しいが、今回の受賞を糧に自分の作品をもっと作りたいという思いが強まった。

◎長編部門 国際審査委員長 黒沢 清氏 (映画監督)

「本当にいろいろな国の映画が集められて

いて、正直どれもかなりレベルが高く、改めて世界中にこんなに優れた映画がたくさんあるんだなということを確認した。今回の受賞作品は、これまでどの映画祭でも紹介されてこなかった、本当に新しい映画だったというのが、素直な喜びだった。受賞された方たちは、さらに世界的な評価を高めていく才能のある作家たちだと思うが、彼らを発見したのは、ここ川口だと大いに誇っていいのではないかと思います。」

◎短編部門 審査委員長 榎井 省志氏 (株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役 / 映画プロデューサー)

「今までは、短編は今後長編を撮る可能性のある監督の登竜門という考え方をしていたと思う。しかし今年作品を見ると、ほぼプロフェッショナルの方々のコンペティションといっても差し支えない。ただ作りたいものだけを作るのではなく、商業的な支えの方をどう説き伏せながら自分の言いたいことを言うか、皆さんがチャレンジしている姿に感動を覚えた。今回受賞した作品は、社会性を踏まえたメッセージを持ちながら、映画が作られているという点で、敬意を表したい。」



短編作品「水戸黄門 Z」出演の嘉悦恵都さん特集「飛翔する監督たち」短編さくひん「ケンとカズ」出演の岡慶吾



短編部門審査委員長 榎井 省志氏



長編部門審査委員長 黒澤清氏



左から、時代小説家 飯島一次氏、「デキモン」の森永大貴氏、最優秀作品賞「I think you're a little confused」の小川育監督、奨励賞「竹田駅メモリーズ」の浜村満果監督



短編部門審査委員 女優の佐伯日菜子さん



上田 清司 埼玉県知事 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 会長)

◎アニメーション部門審査委員長 小出 正志氏  
(アニメーション研究者、東京造形大学教授)

「この映画祭は 15 年近くの長きにわたる、今や「伝統ある」といってもよい映画祭だが、アニメーション部門は始まって数年の若い部門。映画祭の役割のひとつとして、普段あまり知られることのない種類や技法の作品を見ていただいて、そういった作品に親しむ場を作るということもある。ぜひ皆さまに、この映画祭のアニメーション部門を広く周知いただき、もっとたくさんの作品の応募が行われるようになることを期待したい。」

◎上田 清司 埼玉県知事 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 会長)

「本映画祭に参加されたクリエイターの皆さんには、この映画祭を通じ、それぞれ新たな刺激や、ヒントを得て、さらに世界の、そして日本の映画界に飛躍されるきっかけを与えることになったのではないかと思います。ぜひこの映画祭を契機として、世界中に大きく羽ばたいていただきたいと心から願う。」

◎奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 副会長)

「デジタルシネマをテーマとする映画祭と



アニメーション部門審査委員長 小出 正志氏



奥ノ木 信夫 川口市長 (SKIP シティ国際映画祭実行委員会 副会長)

してスタートしたこの映画祭を、埼玉県と川口市が連携し、国内でも屈指の映画祭に育てていきたいと考える。来年は 15 回という節目の年になる。これまで以上に作品をはじめ充実させた 15 回目にしたと思うので、皆さまには大いに期待していただきたい。」

◎土川 勉 映画祭ディレクター

今年も各部門とも、それぞれの作品の力が拮抗していて、ある審査員の方が「これは本当に 100 分の 1 の差ですね」と、審査会で感想を述べられたように、結果は僅差だった。今回、選に漏れたさ皆さんには、今後のご検討を期待したい。また今年から、観客のみなさんの投票によって選ぶ観客賞を正式に設けた。集計後、後日発表するので、ご期待ください。」と締めた。



土川 勉 映画祭ディレクター



オープニングセレモニーで挨拶をする八木信忠総合プロデューサー